新春インタビュー

市長 渡部 修

昨年を振り返って

平成から令和へと、新しい時代の幕開けとなった昨年は、ＪＲ御厨駅の整備が進み、ながふじ学府一体校や新しい文化会館の建設工事が始まるなど、将来に向けて着実な進展が見られました。

一方で、2月には入札妨害事件が発生し、市民の皆さんに大変なご心配とご迷惑をおかけしました。この場を借りて改めて心からお詫びするとともに、二度と不祥事が起きないよう職員一丸となって再発防止に取り組み、引き続き信頼回復に努めてまいります。

市長就任から10年

昨年の4月で市長となり10年がたちました。就任当初は、リーマンショックによる世界的な不況や東日本大震災の発生、合併後に先送りにされてきた課題が山積しているなど、市の財政をはじめ、あらゆる面で危機的な状況にありました。

この状況を立て直すため、行財政改革や職員の意識改革を着実に進めてきた結果、その成果として、最初に申し上げたような大きな事業を同時に進められる体力を蓄えることができました。

ただし、本当に目指すところは箱物の整備ではなく、市民の皆さんに生活がしやすいと感じていただけるような環境をつくること。そして、生活がしやすく、優しさを感じられる磐田市にすることが市長としての一番の目標だと思っています。

合併15周年 今年の位置づけ

今年は合併15年の節目

を迎えます。市長に就任した当時は、新市の一体感の醸成は道半ばと感じていました。

この10年は合併してよかったと実感できるまちづくりを目指し、その目標に向けた取り組みを一つ一つ着実に進めてきましたが、それでも町や村がなくなった寂しさを感じたことがあったと思います。

今年はさまざまな記念事業やイベントなどを通して皆さんにも15年を振り返っていただき、市の一体感がより強くなってきたと感じてもらえる明るい1年にしたいと思います。

万が一の事態に備えて

昨年も全国各地で大きな災害が発生しました。災害はいつどこで起こるか分かりません。磐田市でも今まで以上に防災に力を入れていきます。

災害時にまず困るのはトイレの問題です。この問題の解決策として、これまでもマンホールトイレなどの整備を行ってきましたが、今年は新たにトイレトラック（移動設置型のトイレ）を導入していきます。トラック1台では効果は限定的かもしれませんが、例えば県内の全市町がこれを導入すると、どこかで災害があったときに35台が集結し、トイレ不足を大きく軽減できます。普段はイベントなどで使用してもらい、防災対策の啓発にも活用していきます。

また、災害時の支援物資の保管場所が不足していることから、公共施設の有効活用を検討する中で、豊田支所を食糧や資器材の受け入れ拠点とすることを考えています。

大災害が起きたとき、行政でできることは全力で対応しますが、行き届かないところがどうしても出てきます。自分や家族のために、自分の身は自分で守るという意識をみんなで持つことも大事なことだと思います。

今後も市民の皆さんと行政が一体となって災害に強いまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

人は人の中でしか育たない

私が子どもの頃より間違いなく今は豊かです。しかし、世の中の閉塞感は増し、少子高齢化や子どもの貧困など、避けては通れない問題が山積しています。

未来を担う子どもたちが、優しくたくましく成長して社会に出るためには、家庭教育・学校教育・地域教育が大事です。子どもたちに何を教え、何を体験させ、どうやって社会に送り出すのか。こういったことをもっと意識すべきなのが令和の時代だと思います。

人は人の中でしか育ちません。機械やロボットが先生では子どもは成長できません。我々大人たちがしっかりと足元を見て、子どもたちと向き合っていきたいですね。

市民の皆さんへ

皆さんにとって幸せ多き年にしてほしいと心から願っています。

私自身大きな病気を経験しましたが、市民の皆さんもぜひ健康にはくれぐれも気を付けて元気な日々をお過ごしください。どれだけ気を付けて頑張っていても、避けて通れないことがたくさんあると思いますが、明るく過ごせる1年であってほしいと思います。行政としても「たくさんの元気と笑顔があふれるまち　磐田」を目指して、全力で取り組んでいきます。